

CISPE、Microsoft に対する苦情を欧州委員会 に提出

不公平なソフトウェアライセンス供与に対する効果的な救済策のための業界全体の
枠組みを提案

2022年11月9日、ブリュッセル 本日、欧州クラウド・インフラストラクチャ・サービス・プロバイダ（CISPE）は、Microsoftに対する正式な競争に関する苦情を欧州委員会競争総局（DG Comp）に提出しました。CISPEは、Microsoftに対してすでに別の苦情を寄せているOVHcloudとArubaという2つの加盟組織をサポートしています。CISPEの苦情では、深刻な未解決の問題を考慮し、より広い欧州のクラウドインフラストラクチャ業界を代表しています。活気のあるクラウド・インフラストラクチャ・サービス市場の中で、顧客やベンダーに利益をもたらすような救済策を求めています。

市場調査を阻止するためにMicrosoftが公開した最近の発表、ブログ、およびFAQ文書は、反競争的なライセンス供与プラクティスを迅速に終了させる真意を示すための詳細、明確さ、または保証を提供しているわけではありません。逆に、2022年10月1日にMicrosoftが一方向的に課した新しい契約条件には、新しい不公平なプラクティスがリストに追加されています。同社の現在の立場と行動は、欧州のクラウドエコシステムに回復不能な損害を与え、欧州の顧客は自らのクラウド導入を選択する機会が奪われています。CISPEは、正式な苦情を申し立て、欧州委員会に行動を促すこと以外に選択肢はないと考えています。

本苦情の中で、CISPEは、迅速かつ効率的にセクター全体に導入できるシンプルな救済策を提案しており、「公平なソフトウェアライセンス供与の10原則」への準拠をテストする監査可能な管理枠組みを提示しています。この10原則は、フランスの主要デジタル顧客協会、Cigrefとともに2021年に考案および発表され、以来、欧州やその他の地域の様々なベンダーや顧客協会によって支持されてきました。公平で平等なベストプラクティスによって構成されており、支配的なソフトウェアベンダーがソフトウェアライセンスを使用して、自己優遇や差別待遇したり、その他の方法で顧客を自らのクラウドエコシステムに閉じ込めたりすることができないようにしています。

CISPEは、欧州委員会に対し、これらの分野でのMicrosoftの動きにさらに遅れを取ることなく正式な調査を開始し、CISPEの「公平なソフトウェアライセンス原則のための管理枠組み」を、提案された救済策を評価し、クラウド顧客に対して公平なソフトウェアライセンス供与条項を保証するためのツールとして使用することを検討することを呼びかけています。また、CISPEの苦情では、支配的なソフトウェア企業のソフトウェアライセンス供与条項を定期的に監査する独立した「欧州監査所」の設立も提案されています。

「CISPEの加盟組織は、欧州のデジタル変革と成長のための活気に満ちた自律的な独立した基盤を主張します。不公平なソフトウェアライセンス供与プラクティスの結果として、ベンダーや顧客などが被った被害を是正するために、このセクター苦情を提出しました」とCISPE事務総長のフランシスコ・ミンゴランス氏は言います。「Microsoftは、生産性ソフトウェアにおける優位性を活かして、欧州の顧客がクラウド移行を検討する際の選択肢を制限し、そのコストを増大させることにより、欧州のデジタル経済を歪めています。DG Compは、欧州が必要とし、これにふさわしい堅牢なクラウドエコシステムを守るため、Microsoftのソフトウェアライセンス乱用に対する異議を表明し、正式な調査を迅速に開始する必要があります」



CISPEは、DG Compがその苦情を十分に検討し、すぐに行動して異議告知書を提出し、Microsoftに対して正式な訴訟を提起することを期待しています。これらの問題は、欧州でのクラウドインフラストラクチャの競争市場の存続に不可欠です